

ヤマザクラやカエデ、個人が植えた西洋アジサイ等がある。また江戸時代から防風のために植えたと思われるヤダケが畑や屋敷を囲むように繁茂している。

現在、平地のほぼ全ては市が管理する里道(公有地)であるが、坊跡とは異なる山内の信仰の要所として、現在に至っている。

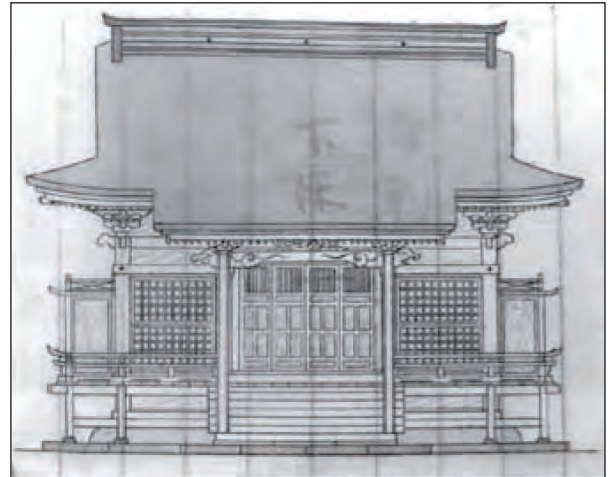


図3-8 中宮神祇殿(旧講堂)正面の図(『明細図』(竈門神社所蔵))

e. 東院谷地区

東院谷地区は上宮地区の東側に位置し、筑紫野市域となっている。

西院谷地区と同様に宝満山祭祀に従事した修験道の行者が坊を営んだエリアで、石垣、石段、通路からなる坊跡、堂社跡、修行や祭祀の場としての窟や鎖場、井等の水場、墓地とその外延に広がる山林などがある(写真 3-18)。東院谷の最も標高が高い場所に座主跡があり、坊跡の中でも広い平地を形成している。

草木の管理についても西院谷と同様、きびしい取り決めがあった。一方、認められていた雇人の入山は東院谷の麓にある大石、本道寺、柚須原などの集落からのものであり、東院谷には大谷尾根道や本道寺道が現在も登山道として残っている。

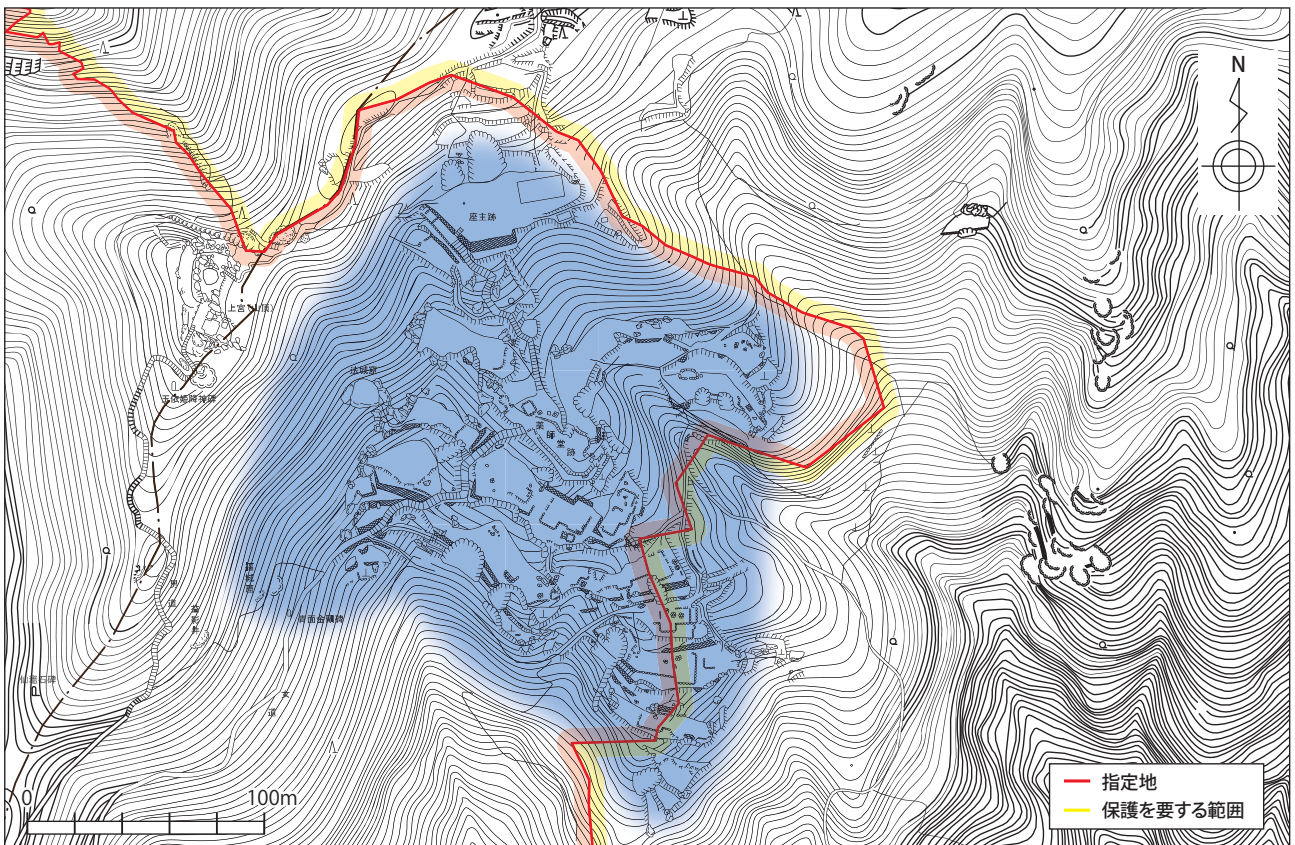


図 3-9 東院谷地区位置図